

5. 緑区遺産紹介

1

登録番号

みどり しん えい かい かい わい

緑新栄会 界限

台村町 ◆平成 26(2014) 年登録

交通

電車：JR 横浜線・市営地下鉄グリーンライン「中山」駅南口から徒歩すぐ



昭和 40 (1965) 年代頃から飲食店街が形成された緑新栄会界限には、昭和の雰囲気を残す街並みが続きます。レトロなファサードや看板、狭く入り組んだ道などが雰囲気を演出しています。普段は大人の街ですが、盆踊り際には浴衣を着た子どもたちで会場があふれ、まさに昭和を思い出させるイベントです。

緑区遺産第一号に登録された緑新栄会界限は区内では数少ない飲食店街で、昭和レトロの情緒ある街並みです。懐かしさと楽しさがあり、そして個性的な各店主たちがいます。仕事の疲れを癒しにお気に入りのお店を探してみませんか？



2

登録番号

く ほ や と たき さま

久保谷戸 お滝様

三保町 ◆平成 26(2014) 年登録

交通

電車：JR 横浜線・市営地下鉄グリーンライン「中山」駅南口から徒歩 20 分
バス停：「住宅前」(中山駅前から神奈中バス中 53 系統、中 54 系統、横 52 系統に乗り)から徒歩 4 分



旧久保村にかつてあった一条の滝は、自然崇拜の対象として農民から大きな尊敬を集めていました。文政 4 (1821) 年の大旱魃の際には、雨ごいの祈願成就がなかったため、不動尊像を建てたと伝えられています。今は水は流れていませんが、もともと灌漑用の水源地で、昔は崖の上から大量の水が流れ落ちていました。室町時代の高僧・印融法印 (P.14 参照) がこの滝で修行したとも伝えられています。

お滝様講中の皆さまによる定期的な清掃活動などにより綺麗な状態に保たれています。人影まばらな川沿いの道に、深い緑と清流に囲まれたお滝様は、この地域の平和・安全・親睦を静かに見守っています。



コロナ禍までは毎年お寺のご住職にお願いして祈年祭を実施してきました。大通りから外れて目立ちにくい場所にありますので、多くの人に訪れてほしいです。

久保谷戸 お滝様講中

ちよい知識

緑区音頭

「緑区音頭」は、歌手の山本譲二さんが作曲・歌唱しています。緑区の活性化を図り、区全体のイメージアップを目的に、「緑区、この街が好き」とともに平成 9 (1997) 年に作られました。「緑区音頭」には振付がありますので、盆踊りや体育祭などで活用できます。緑区 web からダウンロードできるほか、緑区地域振興課では CD を貸し出しています。



なんで久保谷戸の不動尊像は 2 体あるんだろう？



ちよい知識

久保谷戸の 2 体の不動尊像

昭和 36 (1961) 年、滝上方に崖崩れが発生し、不動尊像が行方不明になりました。毎年草刈りや祈年祭の際に探しましたが見つからず、仕方なく講中農家が浄財を集めて像の再現を図りました。そして 14 年後の昭和 50 (1975) 年、この地域に集中豪雨が発生しました。自治会の被害調査の折に、下流の水中に埋没した不動尊像が見つかったのです。これが 14 年間行方不明だった不動尊像と確認され、現在は 2 体の不動尊像が並んで祀られています。

5. 緑区遺産紹介

登録番号
15

山田右京之進城跡碑

三保町

◆平成29(2017)年登録

交通 電車：JR 横浜線・市営地下鉄グリーンライン「中山」駅南口から徒歩16分
バス停：「宮根」(中山駅前から神奈中バス53系統、中54系統、横52系統に乗り)から徒歩8分



山田右京之進城跡碑は、三保町の久保山舊城寺にあります。この地は大昔、山田右京之進の居城があったと言われています。室町時代に、自然の丘陵地を利用して上杉憲清が築いた城は、榎下城と言われていました。榎下城は、当時城主であった憲直(憲清の子)が永享の乱に敗れて金沢称名寺で自決して以来、城主は不明ですが、小田原北条氏の時代にも小机の出城の役目を果たしていたとも考えられています。その後、慶長19(1614)年に久保村の長の遺言により、舊城寺が創建されました。この場所は市内でも数少ない中世の城郭遺構を残す、貴重な歴史遺産で、森林は県指定天然記念物に指定されています。なお、山田右京之進城跡碑は、緑区遺産⑧奇利吹の瀧同様、**県下名勝史蹟四十五佳選**(P.6参照)の当選記念として昭和初期に贈呈されたものです。

山門より境内に入り少し歩くと着きます。この一画が約600年前に城が建っていた場所です。碑の裏側奥の崖では、今も当時の土塁跡を見ることができます。ここに立ち目をつぶり、当時の城と周辺の風景を空想しに足を運んでみてください。



登録番号
9

恩田川の念仏橋跡

小山町

◆平成28(2016)年登録

交通 電車：JR 横浜線・市営地下鉄グリーンライン「中山」駅南口から徒歩17分



現在の小山橋は、昭和40(1965)年代以前に「念仏橋」と呼ばれていました。室町時代に観護寺の住職を勤めた印融法印が、念仏を唱え托鉢をして浄財を集め、人々の往来のため、恩田川に土橋を架けたのが始まりと伝えられています。印融法印は多くの著作を残し、観護寺でも弟子の養成をしました。特に読書を好み、小牛に乗り移動する時も鞍に文卓、角には経巻を付け、お経を唱えて詩歌を口ずさんでいたと言われています。

念仏とは、仏様の姿や功德を思いながら、名前や真言を唱えることです。印融法印が念仏を唱え渡った念仏橋はとても御利益があるのではないのでしょうか。ぜひ皆さまも仏様を思い浮かべながら渡ってみてください。



ちよいスポット

円光寺

円光寺で有名なのは、閻魔様の御縁日です。その昔、毎年1月16日と8月16日に行われました。御縁日には多くの老若男女の参詣人で賑わい、若い男女にとっては縁結びの絶好の機会でもありました。現在では廃れてしまった行事ですが「縁結びのえんま様」は今も祀られています。

※閻魔様の御縁日：休みなく働く地獄の鬼たちが休む「地獄の釜開き」と言われる日で、地獄に落ちた亡者達も責苦を逃れると言われていました。奉公人たちは休日となり、里帰りの時に、閻魔詣でに出かけていたようです。



ちよいスポット

観護寺

印融法印(1435～1519年)は現在の三保町で生まれ、高野山の無量光院の院主となりましたが、関東の真言密教の衰退を憂えて下山し、関東各地の寺院の再興に努めました。各地を回る中で拠点としていたのが観護寺でした。

観護寺には印融法印が眠る墓所や自身が高野山から持ち帰り植えたといわれる菩提樹の古木などがあります。



5. 緑区遺産紹介

登録番号
19

こやまむらとのさまたらかわしじんやあと 小山村殿様荒川氏陣屋跡

小山町

◆ 令和2(2020)年登録

交通 バス停:「新治小学校前」(中山駅前から市営バス23系統、98系統、205系統に乗り換え)から徒歩8分



天正18(1590)年に小田原北条氏が豊臣秀吉に滅ぼされ、代わって徳川家康が関東に入りました。翌年の天正19(1591)年に武蔵国都筑郡小山村(現:小山町)は、同国橋樹郡江ヶ崎村(現:鶴見区江ヶ崎町)とともに、徳川家康の三河時代からの家臣であった旗本・荒川長兵衛重世が治める土地となりました。現在の千葉県、埼玉県にある知行国も合わせると重世が治めた土地は、合計で850石になります。

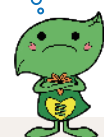
重世は、小山村を本拠地として村内を流れる恩田川のほとりに陣屋(屋敷)を構えていたと伝えられています。陣屋があった場所は昭和38(1963)年の恩田川の改修工事により南北に分断されてしまいましたが、後世に伝えるための記念碑に当時の屋敷位置をみることができます。

ちょい知識

石高

石高とは、土地の生産高を「石」という単位で表したものです。1石(1,000合)は大人ひとりが1年間に食べるコメの量に相当していたので、850石は、850人分のコメが生産できる土地を有していたことになります。

850石って
どのくらいだろう



記念碑にはより詳細な説明が書かれているよ。荒川家とその家臣達に思いを馳せてみよう!



田園風景と電車



陣屋跡から恩田川沿いを東へ約5分歩くと、川の南側には田園風景が広がります。田んぼのすぐ隣を横浜線電車が走っているのは緑区ならではの光景です。

記念碑をきれいに保つため盤面を拭いたり、防草シートを敷いたりするなどして管理しています。

申請団体



荒川家臣の会

登録番号
20

きゅうやましやしやうがっこうもくそうこうしゃこうもん 旧山下小学校 木造校舎・校門

北八朔町

◆ 令和2(2020)年登録

交通 バス停:「山下小学校前」(中山駅北口から市営バス90系統、東急バス青90系統に乗り換え)から徒歩2分



▲ 昭和50～60年代の旧山下小学校校舎



▲ 昭和50～60年代の旧山下小学校階段

横浜市立学校の木造校舎としては最後まで使用されて唯一現存しており、県内でも戦中期の木造校舎としては唯一現存する貴重な歴史的建造物です。特に木造階段は、建設当時のオリジナルのまま残されており、躯体(建物の骨組みなどの構造体)部分にも建設当時の部材が残っています。また、校門の門柱や門扉も廃校前のものが現存し、小学校の面影を残しています。

旧山下小学校は昭和61年の廃校後、地域の強い要望で山下地域交流センターとして再生し、地域に長く愛されましたが、耐震構造上の問題から、令和7年3月31日をもって、惜しまれつつ、一時閉館されることとなりました。

(現在は、校舎内に立ち入ることができません。)

ちょい知識



作品展示の様子
(Google ストリートビュー)

旧山下小学校 年表

1942(昭和17)	現在の山下地域交流センターとして姿を留める木造校舎部分が建てられる(横浜市立山下国民学校)
1947(昭和22)	横浜市立山下小学校と改称
1974(昭和49)	山下小学校の分校となる
1986(昭和61)	横浜市最後の分校として廃校
1988(昭和63)	山下地域交流センターとして新規施工
1989(平成1)	山下地域交流センターオープン
2025(令和7)	山下地域交流センター一時閉館

ちょいスポット

きたはっさくこうえん 北八朔公園を抜けて 港北パーキングエリア(下り)へ



地図はこちらからダウンロード
(十日市場・中山北のウォーキングコース)

北へ足を延ばすと徒歩約30分。身近な生き物が生息できる池やせせらぎ、雑木林や竹林を生かした散策路など、自然とのふれあいを楽しめる北八朔公園があります。

公園内の緑道を抜けると、東名高速道路・港北パーキングエリア(下り)に出ることができます。たくさん歩いたご褒美に美味しいご飯を食べたり、お土産を買ったりしてみたいいかがでしょうか。

※車には十分お気を付けください

5. 緑区遺産紹介

緑区遺産 16 杉沢堰

三保町

◆平成29(2017)年登録

交通

バス停：「杉沢」（十日市場駅前
から市営バス 23 系統・三保中
央行きに乗車）から徒歩 5 分



三保市民の森を源流とする梅田川は、江戸時代から稲作が盛んな地域の重要水資源でした。水田に水を引くには川を堰き止める必要があり、何か所かの「堰」が作られました。「杉沢堰」もその一つで、江戸時代は木製のものだったと想像できますが、昭和初期に貴重なコンクリート製が完成し、杉沢地域の稲作に貢献しました。昭和 40(1965) 年代以降、谷戸付近に徐々に住宅が建ち始め、水田が消失してきたことで堰の役割も失っていきましたが、現在でも西側の谷戸からの流れは、お滝橋を渡り堰に注がれ、昔ながらの姿を残しています。杉沢堰は、平成 11(1999) 年に、景観上貴重な歴史的・文化的資産である土木産業遺構として、横浜市の歴史的建造物に登録されています。

緑区遺産 17 神明谷戸 お滝様

三保町

◆平成29(2017)年登録

交通

バス停：「杉沢」（十日市場駅前
から市営バス 23 系統・三保中
央行きに乗車）から徒歩 5 分



三保町神明谷戸地区のお滝様は、稲作に不可欠な水が絶えぬ事を祈って、梅田川に築かれた灌漑用水の取水堰のそばに祀られてきました。江戸時代には後方の山から清水が湧き出ていて、堰があるあたりが滝となり、川に流れ込んでいたので「お滝様」と呼ばれてきたようです。堰も水路も昭和初期にコンクリート化されましたが、その後も大量の水を流して、長く田畑を潤しました。現在は堰は役目を終え、不動明王像が残っています。

16 先人たちが食糧確保のために人力で水源工事をし、生活していたことを教えてくれる建造物です。訪問者に安全に、いにしえを偲んでいただけるよう、四半期ごとに担当グループで草刈りと清掃作業を行い、維持管理しています。



17 杉沢堰と同じメンバーで管理しています。以前は、10m程奥の岩盤から水が流れ出ており、その近くに石像が安置されていましたが、緑区遺産登録に伴い、現在の場所に移動されました。

ちよいスポッ



▲主屋

旧奥津邸

平成 13 (2001) 年に、この地域に古くからお住まいになっていた奥津家の方々から、家屋敷と緑地が横浜市に寄贈され、家屋敷一帯が「新治里山公園・にはる里山交流センター」となりました。主屋は昔ながらの木造建築の作り方で、くぎを使わずに継手や仕口により組み立てられており、古い農家の面影を残した民家造りです。江戸時代末期に建てられた長屋門と大正 15(1926) 年に建てられた土蔵は横浜市認定歴史的建造物に認定されています。

ちよいスポッ



わらアートの馬

新治里山公園には、緑区産の藁や竹で作られた馬「はるちゃん」が展示されています。緑区制 50 周年記念事業「わらアート」で誕生し、当初は小山町の田んぼに展示されていたが、事業終了後は、ここの納屋で過ごしています。



梅田川遊水地

梅田川遊水地では、水中の生物観察をしたり野鳥撮影をしたりと、ひらけた水辺空間の中で自然を感じることができます。三保町を源流として恩田川と合流する梅田川流域には、ホトケドジョウなどの貴重な在来種が生息している一方で、コイやカワリヌマエビ属などの外来種も確認されています。在来種を守るため、令和 2 (2020) 年には地域の方々とともに、かいぼり（池から水を抜き、清掃や池の破損箇所の点検、在来種の保全等を行うこと）が行われました。横浜市が管理する遊水地は、市内に 10 か所あり、洪水時には河川水を留めることで、下流の水位を下げる役割があります。



ちよいスポッ



梅田川

遊水橋

三保団地入口
バス停



0 100m

5. 緑区遺産紹介

登録番号
10

ねん じゅ さか
念珠坂

三保町

◆平成29(2017)年登録

交通

バス停：「三保橋」または「坂下」
(中山駅前から神奈中バス中53系統、
横52系統に乗り)から徒歩5分



「坂下」バス停から念珠坂公園に上る、ぜひ一度は来てほしい坂道です。夏でもちよいと涼しく、秋には紅葉も映え、行き交う人に笑顔が生まれるそんな「念珠坂」です。



三保念珠坂公園愛護会

念珠坂は、梅田の坂下から三保念珠坂公園等へ上る坂です。

梅田から舊城寺方面、あるいは杉沢を経て榎下に抜ける古道のひとつで、念珠坂に立つと寂寥たる感覚に襲われる、そのようなところです。

坂を登った先にある三保念珠坂公園の広場からは、新治市民の森や十日市場方面を見渡すことができ、眺めの良い場所となっています。

ひと昔前までは、木々が覆い被さり屋でも暗く、崖は風雨で崩れ、足元は赤土層がむき出しとなっていました。とてもきつい坂で、坂を登ったところに茶屋もあり、難渋坂とも呼ばれていたという説もあります。

昭和18(1943)年に宮根(三保)の杉山神社と梅田坂下間の新道ができるまで、村の人達はこの狭く急な坂道を往来しなければならず、とても苦労しました。

登録番号
18

おお やま みち どう ひょう
大山道道標

三保町

◆平成29(2017)年登録

交通

バス停：「三保市民の森」
(中山駅前から神奈中バス中53系統、
横52系統に乗り)から徒歩1分



幕末の嘉永2(1849)年に梅田講中によって建てられた庚申塔です。

大山信仰が盛んだった頃に、大山へ向かう人たちのために刻まれた道標で、庚申塔には、左が「大山みち」、右が「さくばみち」と刻まれています。

さくば(乍場)は、当時の農耕地を示したもので、さくばみちは農地で行き止まりとなっており、大山道へ進む人が道を間違えないための道標となっていました。

現在では年間を通して、三保市民の森愛護会が、庚申塔の周りの草刈りや道路の落ち葉清掃を行っています。

地元の人からは道標付近一帯の呼び名として「庚申様」と呼ばれています。
三保市民の森入口道路脇に建てられていて、その脇には「緑区遺産」の標識があり、三保市民の森来園者の目に入りやすくなっています。



緑区遺産
三保町保存会

ちよいスポット

新治市民の森

念珠坂の西方にある新治市民の森には「谷戸」の風景がよく残されており、斜面の雑木林や谷筋のスギ林と共に、市内では少なくなった「谷戸田」も見ることができます。
毎年、田植えや稲刈り体験なども実施しています。



※谷戸：丘陵大地の雨水や湧水等の浸食による開析谷を指し、三方(両側、後背)に丘陵台地部、樹林地を抱え、湿地、湧水、水田等を構成要素に形成される地形のこと。

※谷戸田：谷戸に開墾された水田。谷戸には湧水があり、洪水被害はなく、開田のための高度な技術も不要であったため、横浜の水田開発は谷戸田から始まったと考えられています。



石仏・神社 ③



石仏・神社 ②



石仏・神社 ④

18

大山道道標

ちよいスポット

三保市民の森

大山道道標を左に進むと、三保市民の森が広がります。ここでは市内でも有数のシダ群を見ることができます。日本で見られる630種のシダ植物のうち、約6分の1の種類が生育しています。



※急な階段あり。
滑りやすいので注意!

念珠坂⇄大山道道標
徒歩約15分だより
途中に石仏や神社(鳥居)
がいくつかあるよ。

